

2014年8月期業績 および2015年8月期業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2014年8月期の業績、および
2015年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

I.	2014年8月期決算概要 JGAAP	P4 ~ P13
II.	2014年8月期決算概要 IFRS	P14 ~ P19
III.	2014年8月期バランスシート IFRS	P20 ~ P21
IV.	2014年8月期キャッシュ・フロー IFRS	P22
V.	2015年8月期業績予想 IFRS	P23 ~ P25
VI.	ご参考資料	P26 ~ P28

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期以降)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

国際会計基準(IFRS)の適用について

当社グループは2014年8月期決算より、従来の日本基準(以下「JGAAP」という)に替えて国際会計基準(以下「IFRS」という)を適用しております。

決算短信ではIFRSのみにて開示を行っておりますが、有価証券報告書においては、JGAAPとIFRSの並行開示をいたします。今回の決算説明会においては、従来からの継続性および、予想数値との比較をしやすいするために、PLについてはJGAAP中心に、ご説明いたします。また、バランスシート、キャッシュ・フローについては、決算短信に沿ってIFRSでご説明いたします。

かねてからお知らせしていた通り、2014年8月期決算から国際会計基準、IFRSへ移行いたしました。決算短信ではIFRSのみにて開示を行っておりますが、有価証券報告書においては、日本基準、JGAAPとIFRSの並行開示をいたします。また、今回の決算説明会においては、従来からの継続性および、予想数値との比較をしやすいために、PLについてはJGAAP中心にご説明してまいります。なお、BS、キャッシュ・フローについては、決算短信に沿ってIFRSでご説明いたします。

計画通りの業績を達成

売上高 : 13,829億円 (前期比 +21.0%)
営業利益 : 1,486億円 (前期比 +11.8%)
当期純利益 : 781億円 (前期比 ▲13.6%)

	2013年8月期 通期実績	直近予想 (7/10)	2014年8月期		
			通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	11,430 100.0%	13,700 100.0%	13,829 100.0%	+21.0%	+0.9%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%	6,865 50.1%	7,018 50.8%	+24.4% +1.5p	+2.2% +0.7p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%	5,410 39.5%	5,531 40.0%	+28.3% +2.3p	+2.3% +0.5p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%	1,455 10.6%	1,486 10.7%	+11.8% ▲0.9p	+2.2% +0.1p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%	1,495 10.9%	1,568 11.3%	+5.3% ▲1.7p	+4.9% +0.4p
当期純利益 (売上比)	903 7.9%	780 5.7%	781 5.6%	▲13.6% ▲2.3p	+0.2% ▲0.1p

単位:
億円

4

2014年8月期の連結業績の概要をご説明いたします。

まず従来と同じ基準のJGAAPでの
 売上高は1兆3,829億円、前期比21.0%増、
 営業利益は1,486億円、同11.8%増、
 経常利益は1,568億円、同5.3%増、
 当期純利益は781億円、同13.6%減と、
 ほぼ計画通りの業績を達成いたしました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

売上高 1兆3,829億円（前期比+21.0%、2,399億円増収）

- ・海外ユニクロ事業 +1,624億円
- ・グローバルブランド事業 +449億円
- ・国内ユニクロ事業 +323億円

売上高総利益率50.8%（前期比+1.5p）

- ・国内ユニクロ事業 +3.0p

売上高販管費比率40.0%（前期比+2.3p）

- ・国内ユニクロ事業 +1.7p
- ・海外ユニクロ事業の拡大

営業利益 1,486億円、前期比11.8%増

経常利益 1,568億円、前期比5.3%増

- ・為替差益が前期の155億円から今期は81億円に減少

当期純利益 781億円、前期比13.6%減

- ・J Brand事業の減損損失127億円
- ・店舗の減損損失46億円

まず売上高ですが、1兆3,829億円と前期比21.0%増、2,399億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が1,624億円の増収、グローバルブランド事業が449億円の増収、国内ユニクロ事業が323億円の増収となっております。

売上高総利益率は50.8%と、前期比1.5ポイント改善いたしました。主な要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同3.0ポイント改善したことがあげられます。

売上高販管費比率は40.0%と、前期比2.3ポイント増加しております。これは主に、国内ユニクロ事業の売上高販管費比率が同1.7ポイント上昇したこと、販管費比率の高い海外ユニクロ事業の構成比の拡大によります。これらの結果、営業利益は1,486億円、前期比11.8%増の増益でした。

経常利益につきましては、1,568億円と、前期比5.3%増に留まっております。これは、為替差益が前期の155億円から今期は81億円に減少したことによります。

当期純利益は781億円と、前期比13.6%減となりました。これは、J Brand事業の減損損失127億円や、店舗減損損失46億円が計上されたためです。

単位：億円

		2013年8月期		2014年8月期		
		通期実績	直近予想 (7/10)	通期実績	前期比	
					前期比	直近予想比
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,150	7,156	+4.7%	+0.1%
	営業損益	968	1,000	1,106	+14.2%	+10.6%
	(売上比)	14.2%	14.0%	15.5%	+1.3p	+1.5p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	4,000	4,136	+64.7%	+3.4%
	営業損益	183	350	347	+89.5%	▲0.6%
	(売上比)	7.3%	8.8%	8.4%	+1.1p	▲0.4p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,530	2,512	+21.8%	▲0.7%
	営業損益	174	210	163	▲6.6%	▲22.3%
	(売上比)	8.5%	8.3%	6.5%	▲2.0p	▲1.8p

注：連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

6

次に、グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

2014年8月期では、
国内ユニクロ事業の売上高は7,156億円、営業利益は1,106億円、
海外ユニクロ事業の売上高は4,136億円、営業利益は347億円、
グローバルブランド事業の売上高は2,512億円、営業利益は163億円
となっております。

国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業では、増収増益を達成いたしました。
一方で、グローバルブランド事業は増収減益の結果となりました。

増収増益を達成

単位：億円

	2013年8月期 通期実績	直近予想 (7/10)	2014年8月期		
			通期実績	前期比	直近予想比
売上高 (売上比)	6,833 100.0%	7,150 100.0%	7,156 100.0%	+4.7%	+0.1%
売上総利益 (売上比)	3,180 46.5%	3,430 48.0%	3,545 49.5%	+11.5% +3.0p	+3.4% +1.5p
販管費 (売上比)	2,211 32.4%	2,430 34.0%	2,439 34.1%	+10.3% +1.7p	+0.4% +0.1p
営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,000 14.0%	1,106 15.5%	+14.2% +1.3p	+10.6% +1.5p

注：売上高には内部取引は含まれておりません。

ここからは国内ユニクロ事業についてご説明いたします。
売上高、営業利益ともに増収増益と、直近予想を上回る結果となりました。

2014年8月期：売上高7,156億円（前期比+4.7%）

- ・既存店売上高：前期比+1.9%（客数 ▲2.4%、客単価+4.5%）
- ・スクラップ&ビルドによる店舗の大型化で1店舗当たりの売上が増加

販売動向	年間を通して、ヒートテック、ウルトラライトダウン、エアリズムなどのコア商品の販売が好調。スカート、ワンピース、ブラウスといった新商品も順調に推移
客単価	客単価は4.5%増。ヒートテック、エアリズムの販売が好調により、買い上げ点数が増加。ジーンズ、スマートスタイルパンツなどのボトムスが好調により1品単価が上昇
客数	客数は2.4%減。前年度が12.0%増と大幅に増加した反動

直営既存店 前年比	2014年8月期							
	上期	3Q	6月	7月	8月	下期	通期	9月
売上高	+2.2%	+2.8%	+2.6%	▲4.8%	+3.8%	+1.6%	+1.9%	+19.7%
客数	+0.5%	▲2.7%	▲3.8%	▲12.0%	▲9.9%	▲5.7%	▲2.4%	+1.9%
客単価	+1.7%	+5.6%	+6.7%	+8.2%	+15.1%	+7.7%	+4.5%	+17.4%

ユニクロ直営店 2014年8月末 831店舗（FC店21店舗を除く）

・前期末比▲3店舗

8

国内ユニクロ事業の売上高は7,156億円と、前期比4.7%の増収となりました。これは主に、既存店売上高が1.9%増となったこと、スクラップ&ビルドによる店舗大型化で1店舗当たりの売上が増加したことによります。

既存店売上高が増収となったのは、年間を通して、ヒートテック、ウルトラライトダウン、エアリズムなどのコア商品の販売が好調だったこと、また、スカート、ワンピース、ブラウスといった新商品の販売も順調に推移したことによります。

客単価は4.5%増加いたしました。これは、ヒートテック、エアリズムの販売が好調により、買い上げ点数が増加したこと、および、ジーンズ、スマートスタイルパンツ、ドライ系パンツなどのボトムスが好調だったことから1品単価が上昇したことによります。

一方で、客数は2.4%の減少となりました。これは、前年度の客数が12.0%増と大幅に増加した反動によるものです。

なお、2014年8月期末における直営店舗数は831店舗と、前期末比で3店舗の減少となっております。フランチャイズ店は21店舗と同2店舗の増加となりました。

すでに発表しておりますとおり、9月は前年に比べ気温が低く、秋物販売が好調に推移したことにより、9月の既存店売上高は前年比で19.7%の大幅な増収となりました。

2014年8月期：売上高総利益率 49.5% (前期比+3.0p)

前期比および計画比で大幅な改善

- ・従来ベースでの売上高総利益率：
 - 通期：前期比1.6ポイント改善
 - 下期：前年同期比4.3ポイント改善
- ・エアリズム、ブラトップ、ステテコ&リラコといった春夏のコア商品やスカート、ブラウスといった新商品の販売が好調

	2013年8月期	2014年8月期	
			前期比
通期	46.5%	49.5%	+3.0p
上期	46.7%	47.5%	+0.8p
下期	46.3%	52.2%	+5.9p

9

売上高総利益率は通期で49.5%と、前期比3.0ポイント改善いたしました。下期6か月間では52.2%と前年同期比5.9ポイントの改善、計画に対しても大幅な改善となりました。

なお、内部取引の影響を除いた従来ベースでの売上高総利益率は、通期では、前期比1.6ポイント改善、下期6か月間では4.3ポイント改善しております。

下期の粗利益率が前年および計画に対して大幅に上回った要因は、エアリズム、ブラトップ、ステテコ&リラコといった春夏のコア商品やスカート、ブラウスといった新商品の販売が好調だったことによります。

2014年8月期:売上高販管費比率 34.1%(前期比+1.7p)

金額、比率ともにほぼ計画通り

- ・人件費+0.9p : パート、アルバイトなどの店舗人件費増
- ・賃借料+0.2p : 都心部の大型店やショッピングモールの店舗の売上高構成比が増加
- ・その他経費+0.5p: 物流費、倉庫費が増加

	2013年8月期		2014年8月期		増減額	
	通期実績	(売上比)	通期実績	(売上比)		(売上比)
販管費合計	2,211	32.4%	2,439	34.1%	+227	+1.7p
人件費	647	9.5%	742	10.4%	+94	+0.9p
広告宣伝費	322	4.7%	339	4.7%	+16	+0.0p
賃借料	477	7.0%	513	7.2%	+35	+0.2p
減価償却費	69	1.0%	86	1.2%	+16	+0.2p
その他経費	693	10.1%	758	10.6%	+64	+0.5p

単位:
億円

10

売上高販管費比率は34.1%と、前期比1.7ポイント上昇いたしました。これは、金額、比率ともにほぼ計画通りとなっております。

経費比率が1.7ポイント上昇した主な内訳は、人件費比率で0.9ポイント、賃借料率で0.2ポイント、その他経費比率で0.5ポイント上昇したことによります。

人件費比率の上昇は、パート、アルバイトなどの店舗人件費を増やした影響によります。

賃借料率の上昇は都心部の大型店やショッピングモールの店舗の売上高構成比が高まったことによります。

その他経費比率が上昇したのは、物流コストの上昇と、定番商品を中心に倉庫在庫を増やしたことによる物流費、倉庫費の増加によるものです。

ほぼ計画通り、大幅な増収増益を達成

- ・グレーターチャイナ、韓国、欧州が計画を上回る増収増益
- ・東南アジア・オセアニア事業は、増収増益も計画を若干下回る
- ・米国事業は、下期に冷夏の影響を受けたこと、出店の前倒し経費増などにより、赤字幅は前年並みに留まる
- ・8月末の店舗数：+187店舗の633店舗まで拡大

単位：億円

		2013年8月期 通期実績	直近予想 (7/10)	2014年8月期		
				通期実績	前期比	直近予想比
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	4,000	4,136	+64.7%	+3.4%
	営業損益	183	350	347	+89.5%	▲0.6%
	(売上比)	7.3%	8.8%	8.4%	+1.1p	▲0.4p

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

グレーターチャイナ、韓国、欧州では好調な既存店売上高を達成したことから、計画を上回る増収増益となりました。

東南アジア・オセアニア事業では、増収増益を達成したものの、計画を若干下回る結果となりました。

米国事業は、下期に冷夏の影響を受けたこと、出店の前倒し経費増などにより、赤字幅は前年並みに留まりました。

なお、海外ユニクロ事業全体では、8月末の店舗数は前年同期末比187店舗増え、633店舗まで拡大いたしました。

各エリアの業績トレンド

- ・グレーターチャイナ：計画を上回る大幅な増収増益**
売上高 2,081億円+66.5%、営業利益 248億円+83.0%
 中国、台湾では、順調な出店と既存店売上高の2桁増収が継続
 8月末のグレーターチャイナの店舗数は374店舗
- ・韓国：計画を上回る大幅な増収増益**
 既存店売上高は増収。8月末の店舗数は133店舗
- ・東南アジア・オセアニア地区：増収増益も、計画を若干下回る**
 春夏商品の販売が下回ったことから、通期で計画を若干下回る業績
 4月と9月にオーストラリアメルボルンに出店、計画以上の売上と順調
 8月末の店舗数は80店舗まで拡大
- ・米国：冷夏と経費増により、赤字幅はほぼ前年並み**
 上期の業績は好調も、下期は冷夏の影響、新店の前倒しによる経費増により、
 通期の営業赤字幅はほぼ前年並み、8月末の店舗数は25店舗
- ・欧州：計画を上回る増収増益を達成**
 天候、生活スタイルに密着した販売を行った結果、既存店売上高は2桁増収と好調
 4月にオープンしたドイツベルリンのグローバル旗艦店は順調

12

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

中国、香港、台湾といったグレーターチャイナの売上高は2,081億円、前期比66.5%増、営業利益は248億円、前期比83.0%増と、計画を上回る大幅な増収増益となりました。中国では、順調な出店が続いていることに加え、ウルトラライトダウン、ヒートテック、UTなどの販売が好調で、既存店売上高は2桁増収を継続いたしました。台湾でも、順調な出店と既存店売上高の2桁増収が続いており、8月末のグレーターチャイナの店舗数は374店舗に達しております。

韓国でも既存店売上高の増収が続き、計画を上回る大幅な増収増益を達成いたしました。8月末の店舗数は133店舗に達しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアといった東南アジア・オセアニア地区では、増収増益を達成いたしましたが、売上高、営業利益ともに計画を若干下回りました。これは、春夏商品の販売が計画を下回ったことによります。また4月と9月にオーストラリア、メルボルンに出店した店舗は計画以上の売上と順調な業績となっております。東南アジア・オセアニア地区では、通期で41店舗を出店し、8月末の店舗数は80店舗まで拡大しております。

米国では、上期の業績は好調に推移したものの、下期は冷夏の影響を受けたこと、新店の前倒しによる経費増により、通期の営業赤字幅は、ほぼ前年並みに留まる結果となりました。通期では、18店舗を出店し、8月末の店舗数は25店舗に達しております。

英国、フランス、ロシア、ドイツといった欧州ユニクロでは、計画を上回る増収増益を達成することが出来ました。これは、ウルトラライトダウンなどの秋冬商品を夏から販売するなど、欧州の天候、生活スタイルに密着した販売を行った結果、既存店売上高が2桁増収と好調に推移したことによるものです。4月にオープンしたドイツベルリンのグローバル旗艦店は順調な推移となっており、欧州におけるユニクロブランドの知名度の向上に貢献しております。

増収も、計画を下回り減益

・ジーユー事業：増収減益、計画を下回る

売上高1,075億円(+28.4%)、営業利益68億円(▲10.8%)

下期では、販売が苦戦し、在庫処分による値引き販売が増加
秋冬シーズンでは、商品の見直しを図り、足元の販売は好調

・セオリー事業：増収も若干の減益、計画を下回る

・CDC事業：売上高、営業利益ともに計画を上回る増収増益

・PTT事業：減益、冷夏により、水着販売が苦戦

・J Brand事業：赤字継続のため、減損損失計上

単位：億円

		2013年8月期 通期実績	2014年8月期			
			直近予想 (7/10)	通期実績	前期比	直近予想比
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,530	2,512	+21.8%	▲0.7%
	営業損益	174	210	163	▲6.6%	▲22.3%
	(売上比)	8.5%	8.3%	6.5%	▲2.0p	▲1.8p

13

グローバルブランド事業の売上高は2,512億円、前期比21.8%増、営業利益は163億円、同6.6%減と、増収減益、計画に対しても下回る結果となりました。

ジーユー事業の売上高は1,075億円、前期比28.4%の増収となりましたが、営業利益は68億円、同10.8%の減益と増収減益の結果となっております。上期は増収増益でしたが、下期は、若年層向けのファッションに偏りすぎたため、春先から販売が苦戦し、在庫処分による値引き販売が増加いたしました。今期の秋冬シーズンでは、商品の見直しを図り、足元の販売は好調となっております。

セオリー事業につきましては、増収となりましたが、営業利益は若干の減益と計画を下回る結果となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業は、売上高、営業利益ともに計画を上回る増収増益を達成いたしました。

プリンセス タム・タム事業は、冷夏により水着販売が苦戦したため、営業利益は計画を下回り、減益となりました。

J Brand事業は赤字が継続したため、期末に減損損失を計上いたしました。

売上収益 : 13,829億円 (前期比 +21.0%)
営業利益 : 1,304億円 (前期比 ▲2.8%)
**親会社の所有者に
帰属する当期利益** : 745億円 (前期比 ▲28.7%)

単位: 億円

	IFRS			JGAAP	
	2013年8月期 通期実績	2014年8月期		2014年8月期	
		通期実績	前期比	通期実績	前期比
売上収益 (売上比)	11,429 100.0%	13,829 100.0%	+21.0%	13,829 100.0%	+21.0%
売上総利益 (売上比)	5,651 49.4%	6,997 50.6%	+23.8% +1.2p	7,018 50.8%	+24.4% +1.5p
販管費 (売上比)	4,261 37.3%	5,491 39.7%	+28.9% +2.4p	5,531 40.0%	+28.3% +2.3p
営業利益 (売上比)	1,341 11.7%	1,304 9.4%	▲2.8% ▲2.3p	1,486 10.7%	+11.8% ▲0.9p
当期利益 (売上比)	1,074 9.4%	793 5.7%	▲26.2% ▲3.7p	-	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,045 9.2%	745 5.4%	▲28.7% ▲3.8p	781 5.6%	▲13.6% ▲2.3p

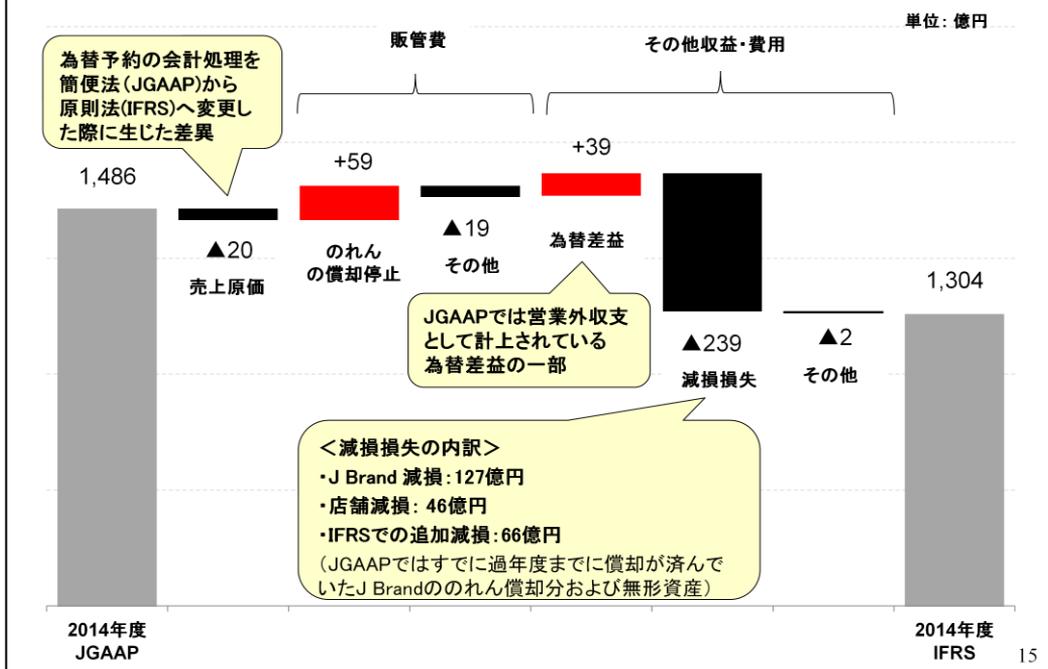
14

次に、連結業績を国際会計基準、IFRSで見た場合の業績をご説明いたします。

売上収益は1兆3,829億円、前期比21.0%増、
 営業利益は1,304億円、同2.8%減、
 当期利益は793億円、同26.2%減
 親会社の所有者に帰属する当期利益は745億円、同28.7%減となりました。

次のスライドで営業利益でのJGAAPとIFRSとの差異についてご説明いたします。

【連結】営業利益におけるJGAAPとIFRSの差異



JGAAPの営業利益1,486億円に対して、IFRSの営業利益は1,304億円と182億円の差異が生じております。

これは、JGAAPでは特別損失として計上されているJ Brandの減損損失127億円と店舗減損46億円が、IFRSでは営業利益にマイナス計上されていること、また、IFRSではJGAAPでは、すでに過年度までに償却が済んでいたJ Brandののれん償却分および、無形資産、66億円が追加減損損失として、営業利益にマイナス計上されていることによります。

一方で、JGAAPでは営業外収支として計上されている為替差益の一部39億円と、のれん償却費59億円の計上がなくなった点が、IFRSでは営業利益のプラス要因となっています。

この結果、JGAAPの営業利益は前年比で増益でしたが、IFRSでは減益となっております。

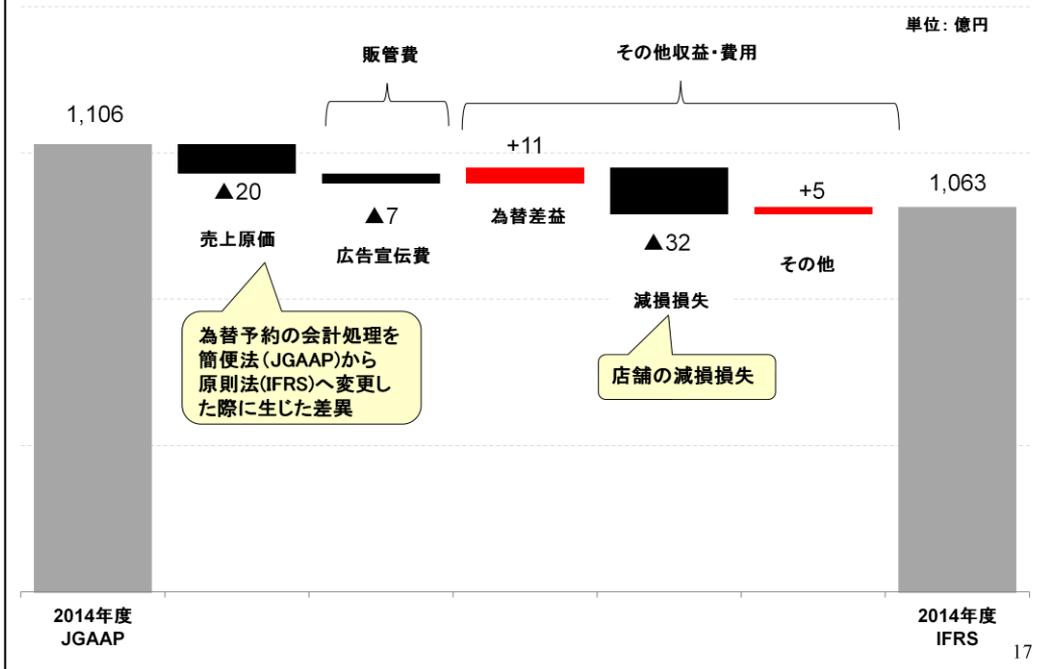
単位：億円

		IFRS			JGAAP	
		2013年8月期	2014年8月期		2014年8月期	
		通期実績	通期実績	前期比	通期実績	前期比
国内ユニクロ事業	売上収益	6,833	7,156	+4.7%	7,156	+4.7%
	営業損益	952	1,063	+11.6%	1,106	+14.2%
	(売上比)	13.9%	14.9%	+1.0p	15.5%	+1.3p
海外ユニクロ事業	売上収益	2,511	4,136	+64.7%	4,136	+64.7%
	営業損益	124	329	+165.1%	347	+89.5%
	(売上比)	4.9%	8.0%	+3.1p	8.4%	+1.1p
グローバルブランド事業	売上収益	2,062	2,512	+21.8%	2,512	+21.8%
	営業損益	166	▲41	-	163	▲6.6%
	(売上比)	8.1%	-	-	6.5%	▲2.0p

注：連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの業績が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

IFRSでのグループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

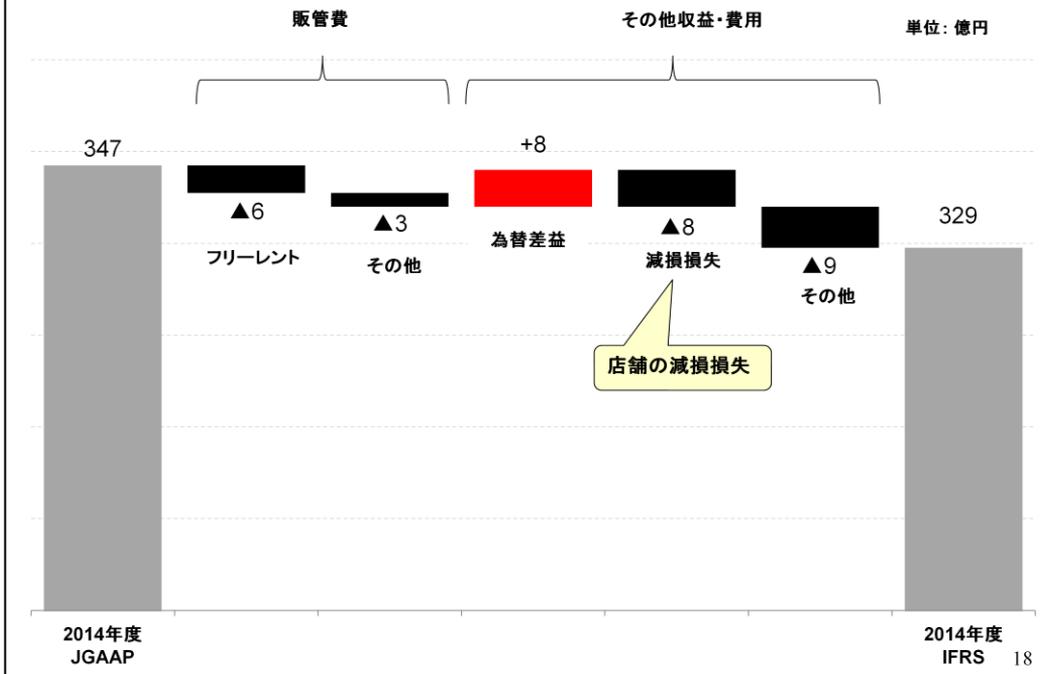
【国内ユニクロ事業】営業利益 IFRSとの差異



セグメント別のJGAAPとIFRSの差異についてご説明いたします。

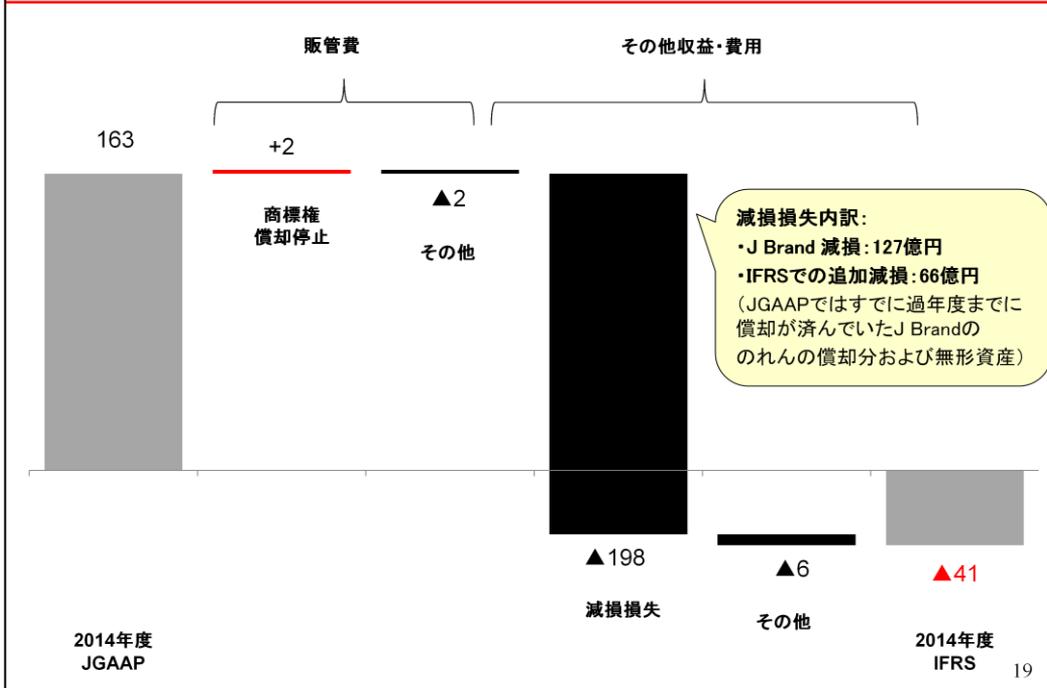
国内ユニクロ事業では43億円の差異が生じておりますが、これは主に、店舗の減損損失32億円によるものです。

【海外ユニクロ事業】営業利益 IFRSとの差異



海外ユニクロ事業では、18億円の差異が生じておりますが、これは主に、フリーレントと店舗の減損損失によるものです。

【グローバルブランド事業】営業利益 IFRSとの差異



IFRSでのグローバルブランド事業の営業損益は41億円の赤字とJGAAPに比べ、204億円の差異が生じております。

これは主に、JGAAPでは特別損失として計上されているJ Brandの減損損失127億円が、IFRSでは営業利益にマイナス計上されていること、また、IFRSではJGAAPではすでに過年度までに償却が済んでいたJ Brandの、のれんの償却分および、無形資産、66億円が追加減損損失として、営業利益にマイナス計上されていることによります。

単位：億円

	2013年8月末	2014年8月末	増 減
資産合計	9,012	9,923	+910
流動資産	6,375	7,170	+795
非流動資産	2,636	2,752	+116
負債合計	3,114	3,562	+447
資本合計	5,897	6,360	+463

20

次に、バランスシートについてご説明させていただきます。

資産合計は9,923億円と、前期比910億円増加いたしました。
 これは、流動資産が同795億円増加したこと、および非流動資産が同116億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

流動資産の増加 +795億円 (6,375億円 ⇒ 7,170億円)

・現金及び現金同等物の増加 +173億円 (2,967億円 ⇒ 3,140億円)

・たな卸資産の増加 +557億円 (1,675億円⇒2,232億円)

【国内ユニクロ事業】+155億円 通年で販売する定番商品の増加

【海外ユニクロ事業】+336億円 店舗数が前期末比で187店舗増加

【グローバルブランド事業】+51億円

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増

・デリバティブ金融資産: ▲145億円 (資産1,136億円⇒資産991億円)

【国内ユニクロ事業】 8月末では、為替予約の残高が前期末比で減少
ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はなし

非流動資産の増加 +116億円 (2,636億円 ⇒ 2,752億円)

・有形固定資産の増加 +230億円 (913億円 ⇒ 1,143億円)

【海外ユニクロ】前期末比187店舗の増加【グローバルブランド】同118店舗の増加

まず、流動資産が795億円増加した要因をご説明いたします。
現金及び現金同等物の合計額は3,140億円と、前期末比で173億円増加いたしました。これは、海外ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

期末のたな卸資産は2,232億円と、同557億円増加しております。
国内ユニクロ事業の8月末の在庫は同155億円増加いたしました。これは、通年で販売する定番商品を増やしたことなどの影響によります。
海外ユニクロ事業の在庫は、前期末比で336億円増加しております。これは、8月末の店舗数が同187店舗増えたこと、ドイツベルリンにグローバル旗艦店がオープンしたことによります。グローバルブランド事業の在庫は、同51億円増加しております。これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で991億円と前期末比145億円減少いたしました。これは、8月末では、為替予約の残高が前期末比で減少したためです。なお、ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はございません。

非流動資産は、前期末比で116億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の店舗数がそれぞれ同187店舗、118店舗増加したことにより、有形固定資産が同230億円増加したことによります。

	2013年8月期 実績	2014年8月期 実績	コメント	単位: 億円
営業活動によるキャッシュ・フロー	+994	+1,105		
税引前利益	+1,557	+1,354	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献	
減価償却費およびその他の償却費	+236	+308		
減損損失	+50	+239	J Brand および店舗減損損失239億円	
運転資金の増減額	▲155	▲426	仕入債務 469億円増→104億円増	
法人税等の支払・還付	▲554	▲555		
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲625	▲563		
有形固定資産の取得による支出	▲273	▲400	旗艦店や出店拡大に伴う投資	
無形資産の取得による支出	▲40	▲75	システム投資など	
新規連結子会社の取得による支出	▲267	-	前期はJ Brand 買収に伴う費用	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲242	▲440		
長期借入れによる収入	+166	-	前期はJ Brand 買収に伴う借入れ	
配当金の支払額	▲283	▲312	一株当たり期末配当金150円、中間配当金150円の支払い	
現金及び現金同等物の増加額	306	173		
現金及び現金同等物 期首残高	2,660	2,967		
現金及び現金同等物 期末残高	2,967	3,140		

次に、2014年8月期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,105億円の収入となりました。主な内訳として、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献1,354億円と収入が増加する一方で、法人税555億円や運転資金増で426億円など、支出が増加いたしました。

運転資金での支出が前期比で増加しているのは、仕入れ債務が前期では469億円の増加に対し、今期は104億円の増加に留まったためです。これは、期末の銀行休業日の曜日回りの影響によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは563億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で400億円、システム投資などによる無形資産の取得で75億円となっております。

なお、連結の設備投資額は588億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で103億円、海外ユニクロ事業で314億円、グローバルブランド事業で77億円、システム投資などファーストリテイリング本体で87億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、440億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額312億円の支出となっております。

以上の結果、2014年8月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,140億円となりました。

売上収益 : 16,000億円 (前期比+15.7%)
営業利益 : 1,800億円 (前期比+38.0%)
当期利益 : 1,080億円 (前期比+36.1%)
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,000億円 (前期比+34.1%)

	2014年8月期	2015年8月期	
	通期実績	通期予想	前期比
売上収益 (売上比)	13,829 100.0%	16,000 100.0%	+15.7%
営業利益 (売上比)	1,304 9.4%	1,800 11.3%	+38.0% +1.9p
税引前利益 (売上比)	1,354 9.8%	1,800 11.3%	+32.9% +1.5p
当期利益 (売上比)	793 5.7%	1,080 6.8%	+36.1% +1.1p
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	745 5.4%	1,000 6.3%	+34.1% +0.9p

単位：億円

23

ここからは、2015年8月期の業績予想について、IFRSベースにて、ご説明いたします。

売上収益は、1兆6,000億円、前期比15.7%増、

営業利益は、1,800億円、同38.0%増、

当期利益は、1,080億円、同36.1%増、

親会社の所有者に帰属する当期利益は、1,000億円、同34.1%増を見込んでおります。

国内ユニクロ事業:増収増益

- ・ 既存店売上高は約3.5%増を見込み、売上収益は増収の予想
- ・ 営業利益率は横ばい、営業利益は増益の予想

海外ユニクロ事業:大幅な増収増益

- ・ 海外ユニクロの出店数は、200店舗を見込む
内訳としては、グレーターチャイナ約100店舗、韓国約30店舗、
東南アジア・オセアニア地区約45店舗、米国約20店舗、欧州約5店舗
- ・ 営業利益率は若干の改善、営業利益は大幅な増益を予想

グローバルブランド事業:増収増益

- ・ グローバルブランド事業の出店数は、100店舗を見込む
内訳としては、GU約50店舗、セオリー約45店舗、
コントワー・デ・コトニエ約5店舗
- ・ GU、セオリー、コントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タム、J Brandの
各事業はいずれも増収増益を予想
- ・ J Brandの減損損失が想定されていないため、セグメント営業利益は大幅増益

24

なお、セグメント別の業績予想については、精度の高い予測が難しいことから、今期から定性的な見込みのみお伝えしていくこととしたいと思います。なお、実績については、従来通り、セグメント別の売上と営業利益を開示してまいります。

まず、国内ユニクロの今期の予想ですが、増収増益を見込んでおります。既存店売上高は、約3.5%の増収を見込み、売上収益は増収を予想しております。営業利益率は横ばい、営業利益は増益を予想しております。

海外ユニクロ事業では大幅な増収増益を見込んでおります。出店数は、200店舗を見込んでおり、その内訳としては、グレーターチャイナで約100店舗、韓国で約30店舗、東南アジア・オセアニア地区で約45店舗、米国で約20店舗、欧州で約5店舗を見込んでおります。海外ユニクロ事業の営業利益率は若干の改善、営業利益は大幅な増益を予想しております。

グローバルブランド事業も増収増益を予想しております。出店数は、100店舗、その内訳としては、GUで約50店舗、セオリーで約45店舗、コントワー・デ・コトニエで約5店舗を見込んでおります。GU、セオリー、コントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タム、J Brandの各事業はいずれも増収増益を予想しております。

なお、2014年8月期に計上されたJ Brand事業の減損損失が今期は想定されていないため、グローバルブランド事業のセグメント営業利益は大幅な増益となることを見込んでおります。

2015年8月期 配当金予想

2014年8月期 年間配当金 300円を見込
2015年8月期 年間配当金 320円を予定

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2013年8月期	140円	150円	290円
2014年8月期 ※1	150円	150円	300円
2015年8月期(予想) ※2	160円	160円	320円

※1 2014年8月期の期末配当金は、2014年11月3日開催予定の当社取締役会での決議を前提としています。

※2 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、配当金についてご説明させていただきます。

2014年8月期の配当金は、期末配当金150円を含み、
1株当たりの年間配当金300円を見込んでおります。

2015年8月期の配当金につきましては、中間配当金160円、
期末配当金160円、あわせて年間で320円を予定しております。
以上で、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

連結対象会社別出退店 実績

【単位：店舗】	2013年8月 期末	2014年8月期末			期末
		出店	退店	純増減	
ユニクロ事業合計	1,299	247	61	+186	1,485
国内ユニクロ事業:	853	54	55	▲1	852
直営店	834	51	54	▲3	831
大型店	177	26	4	+22	199
標準店等	657	25	50	▲25	632
FC	19	3	1	+2	21
海外ユニクロ事業:	446	193	6	+187	633
中国	225	83	2	+81	306
香港	18	5	1	+4	22
台湾	37	9	0	+9	46
韓国	105	31	3	+28	133
シンガポール	12	6	0	+6	18
マレーシア	10	11	0	+11	21
タイ	10	10	0	+10	20
フィリピン	6	10	0	+10	16
インドネシア	1	3	0	+3	4
オーストラリア	0	1	0	+1	1
米国	7	18	0	+18	25
英国	10	0	0	0	10
フランス	3	3	0	+3	6
ロシア	2	2	0	+2	4
ドイツ	0	1	0	+1	1
グローバルブランド事業:	1,150	152	34	+118	1,268
ジーユー事業	214	77	15	+62	276
セオリー事業※	411	58	9	+49	460
コントワー・デ・コトニエ事業※	375	8	9	▲1	374
プリンセス・タム・タム事業※	150	3	1	+2	152
J Brand	0	6	0	+6	6
総 合 計	2,449	399	95	+304	2,753

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店を含む

連結対象会社別出退店 予想

【単位：店舗】	2014年8月 期末	2015年8月期 予想			
		出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,485	247	70	+177	1,662
国内ユニクロ事業：	852	47	55	▲8	844
直営店	831	37	54	▲17	814
大型店	199	16	5	+11	210
標準店等	632	21	49	▲28	604
FC	21	10	1	+9	30
海外ユニクロ事業：	633	200	15	+185	818
グローバルブランド事業： ※	1,268	100	15	+85	1,353
総合計	2,753	347	85	+262	3,015

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店を含む

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2013年8月期 通期(12ヶ月平均)	89.8	117.3	140.2	14.5	8.1
2014年8月期 通期(12ヶ月平均)	101.5	138.2	167.5	16.5	9.6
2015年8月期 通期予想レート	102.5	141.5	172.0	16.4	10.0

設備投資 減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2013年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	396	236
2014年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	588	308
2015年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	617	321

設備投資内訳

2014年8月期実績： 国内ユニクロ 103億円、海外ユニクロ 314億円、グローバルブランド 77億円、システム投資 87億円

2015年8月期予想： 国内ユニクロ 55億円、海外ユニクロ 312億円、グローバルブランド 106億円、システム投資 144億円